

活躍の場は全国へ



熊本県山都町は、平成17年に2町1村が合併して誕生し、人口1万7千人、面積は県内市町村3番目の545km²と広大で、7割以上が山林です。農林業が基幹産業の過疎中山間地の町で、高齢化率は40%に達します。

あと30年で半分になると推計される人口の急激な減少、後継者不足・鳥獣被害などで停滞する農林業、空き店舗が目立つ商店街、入込客が減少する観光・医療・介護関係の支出増、合併後の行政財政改革など、山都町の課題を挙げるところがありません。他方で、豊かな自然や農産品、何より前向きに取り組む「人」など、多くの財産があります。

そうした中、とにかく、「ここに住んでよかった」と思える、元気で前向きなまちづくりを進めなければ、若者はますますこの町を離れ、子どもは生まれず、急激な人口減少に歯止めがかかりません。人がこれ以上住まなくなれば、農地や森林は荒れてしまい、農産品の生産機能や、水源涵養といった国土の保全機能が維持できなくなります。まさに「まったくなし」です。

私は、町が置かれた厳しい環境の中で、副町長として、町長が実現したい政策の最高の補助者であり、提言者になることを目指しています。「集落営農の推進」、「有機農産物のブランド化」、「九州山地を観光の新たな柱にする」、「日本一健康な人が多いまちづくり」などの町長の方針を実現するため、農家・商店街の人との話合いや、都市部の企業への売り込みなど、町長の代役として、「現場主義」をモットーに、町の内外を走り回っています。例えば、国の「重要文化的景観」に選定されている白糸台地の棚田米のブランド化に

取り組むため、集落の話し合いなどに一緒に取り組んでいます。

副町長としてのやりがいは、政策の現場に近く、多くの住民の皆さんとの出会いがあること、そして、農政・福祉・道路・商工観光・教育から、財政・人事管理など、町のあらゆる課題について、町長を支え、町長・職員の皆さんとともに考え、決定し、実行していくことができるということです。特に、これほど多くの行政分野に現場で携わることができるのは、初めての得難い経験です。

総務省において、他府省の政策をチェックしたり、地方分権の推進を担当する際には、国・地方全体の多様な政策の実施状況を知ることができます。副町長としての経験は、今後の総務省の勤務で大いに役に立つと確信しています。

総務省は、活躍のフィールドが無限に広がっています。職業選択という大事な岐路に立っている皆さんに、ぜひ総務省の職員の生の声を聞いてもらいたいと思います。

経歴

平成11年 4月	総務省採用 同 青少年対策本部企画調整課
平成12年 8月	鳥取県総務部市町村振興課
平成13年 8月	総務省自治税務局企画課
平成14年 7月	同 行政評価局企画課長
平成16年 8月	同 郵政行政局検査監理官室 府金保険検査官
平成18年 6月	内閣官房行政改革推進本部事務局 政府関係法人改革担当課長補佐
平成19年 4月	総務省大臣官房総務課 特別基金事業推進室課長補佐
平成21年 4月	人事・恩給局人事政策課長補佐 同 行政管理局審議官(企融・財務担当)
平成23年 7月	現職
平成24年 8月	

地域で守る、世界の宝 ～富士山の麓から～



山梨県知事政策局
富士山保全推進課長

泉 智徳

○ 2013年6月22日夕方。「富士山、世界遺産採択!」カンボジア副首相が高らかに宣言し、木槌を下ろしたこの瞬間、富士山は我が国17番目の世界遺産に登録されました。この歴史的瞬間を、私は職場の小さなテレビで見ていました。それから約1か月後、その「世界の宝となった山」を担当する課長に任命されるとは知らずに…。

○ 日本人の心の拠り所として、また(浮世絵や富士講など)芸術や信仰の対象として圧倒的な存在感を放ち続けてきた富士山。その価値は世界からも高く評価されている一方で、しばしば世界遺産としては「仮免許状態」とも言われ、「年間30万人を超す登山者数」から「山麓の開発」に至るまで、多くの課題が残されているのも事実です。現在、私は、そうした課題に対する保全策を立案する仕事をしています。「弾丸登山」対策や「協力金」制度導入といった施策も、そうした対応の一環。さらに、再来年(2016年)には、国内の世界遺産では例のない、ユネスコへの「保全状況報告書」提出という難関が待ち受けています。「いつまでも富士山を世界遺産に」を合言葉に、今日も同志である職員の方々とともに、仕事に励んでいます。

○ 世界遺産という言葉が国内で広く普及したのはここ20年前のこと。世界遺産の保全に関

経歴

平成20年 4月	総務省採用 同 自治行政局合併推進課
平成20年 8月	大阪府総務部財政課
平成22年 4月	総務省自治行政局選挙部管理課
平成23年 7月	内閣官房副長官補付
平成25年 4月	山梨県知事政策局政策主幹
平成25年 8月	現職

する包括的な法律などはまだ確立されていないのが現状です。多岐にわたる課題に対応するためには、行政のみならず、住民や観光業者といった「地域」が主体となった「ルール作り」をしていくことが必要です。富士山は巨大な観光地であり、生活の糧にしている人も相当な数に上るため、日々、そうした方々のところに足を運び、膝を突き合わせながら意見を交わす作業が続きます。地域の将来を思う、熱心な関係者から「意見の中には、時には県に対する『苦情』や『不満』の声などもありますが、それらひとつひとつが、施策を進める上でヒントや気付きを与えてくれています。

ルールは、ただ作っただけでは機能しません。ユーザーである住民や関係者の「理解を得て」、(更には「守ってもらえて」)初めてルールとして機能するのです。私は世界遺産という、ある種独特な仕事を通じて、総務省の先輩方が常に口にする「現場感覚」の大切さを実感しています。将来、国に戻った時にも、この「現場感覚」が、大いに役立つものと確信しています。

○ 激動の現代社会、多様化する価値観。そして不透明な日本の未来。官民間わず、誰もが「組織」に依存するのではなく「個人」としての力を問われる時代。

幸いにも総務省職員には、地方自治体をはじめとする多様なキャリアパスに恵まれ、自分の多面的なスキルを伸ばす機会が与えられています。そして、山梨や静岡に富士山があるように、それぞれの地域には独自の「資源」があります。地域がそうした「資源」に気づき、個性を發揮していくことで、地域の集合体である日本全体が、より魅力的ですごい国になっていくはず。総務省には、あなたの自身の手で、地域から国を良くすることのできる無数のフィールドが待っているのです。

○ あらかじめ正答が用意されていない、世界遺産の保全という業務。日々、一人の人の間としての総合力(知力、胆力、想像力...)が問われている気がします。新しい発見や試行錯誤の連続の日常は、まるで「冒険」に近いものがあります。

地域から国を良くするという「冒険」、一緒にしてみませんか?

北海道総務部財政局財政課長 宮本 貴章



二足の草鞋を履きながら、明日の日本を思う

平成26年1月24日(金)の記録:
財政課長としての1日

予算編成作業も佳境に入る。午前中の副知事査定(査定:担当課からの予算要求に対し、予算措置の可否を決めるための会議)に続き、午後は次週実施予定の知事査定の事前説明。昨今の社会状況や道内の出来事を踏まえ、予算上の工夫と道民への丁寧な説明を行うよう、知事から個別具体的な指示あり。道民に支えられた知事の、まさに政治家ならではの視点に頭が下がる思い。

平成26年1月25日(土)の記録:
ハンターとしての1日

前日の予算編成作業から一転、狩猟仲間5人と白糠町の山林でエゾシカ獣を行き、4頭の獲物を得る。後日、シカ肉は家族で頂き、職場の方々にも振る舞う。我々人間も自然の恵みを受けて生きていることを実感し、感謝する瞬間。

も地域に貢献することができれば、日本はさらに良くなっていくはず、そう思い、現在の活動を続けています。また、行政官にとって実体験に基づいて判断できることほど心強いことはなく、狩猟や留寿都村での経験は環境行政・農業行政に取り組む際の大きな助けになっています。

このような地域での様々な経験を仕事に生かすことができるという点で、総務省職員のキャリアパスは大変素晴らしいです。霞が関で国全体の制度設計に携わる一方、地方公務員として地域で全力投球し、そこで得た知識と経験を霞が関や別の地域で生かす...この現場感覚と経験に裏打ちされた仕事ぶりこそが総務省職員の強さの源なのです。

人間で勝負する環境に身を置き、全身全霊を注ぐに値する仕事に巡り合いたいと願う方には、総務省で働くことがこの上なく魅力的に映るはずです。志ある皆さんが総務省の門を叩いてくれる日を心待ちにしています。



知事室にて高橋知事と打合せ

経歴

平成10年 4月	自治省採用 同 税務局企画課
平成10年 8月	島根県総務部地方課
平成11年 7月	環境省企画調整局企画調整課
平成13年 4月	総務省自治行政局公務員部福利課
平成14年 4月	同 自治行政局公務員部公務員課
平成15年 8月	内閣府地方分権改革推進会議事務局
平成16年 5月	総務省消防厅救急救命課
平成16年 7月	米国留学(UCLA)
平成18年 7月	内閣官房郵政民営化推進室参事官課
平成19年 10月	総務省自治行政局自治政策課
平成20年 4月	国際化国際協定専門官
平成20年 4月	神戸市行財政局財政部長
平成22年 4月	総務省自治行政局公務員部公務員課
平成23年 6月	給与能率推進室課長補佐
平成25年 4月	北海道総合政策部地域づくり支援局参事現職